

ソニーミュージックグループが“レーベルゲートCD”を発売 ～音楽CDの著作権保護のために～

2002年11月20日

株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメント(東京都千代田区、代表取締役 岸栄司、以下 SMEJ)を本社とするソニーミュージックグループのレーベルカンパニーから音楽の著作権保護機能を付加した“レーベルゲートCD”(*1)を発売いたします。

ソニーミュージックグループでは、デジタル・ネットワーク時代に対応した音楽CDの著作権保護について検討を重ねてまいりました。このたび、デジタル・ネットワーク時代における音楽ユーザーのニーズや利便性を考慮した上で、作詞家・作曲家やアーティストの権利を適正に保護するネットワーク認証型CCCD“レーベルゲートCD”を発売することにより、音楽をパソコンで楽しむことのできる環境を音楽ユーザーに提示するとともに、「音楽創造のサイクル」の健全なる維持に努めてまいります。

また、この“レーベルゲートCD”の採用を他のレコード会社に対しても広く呼びかけており積極的にご検討いただいております。

記

1. 発売商品:

2003年1月22日以降、ソニーミュージックグループのレーベルカンパニーから発売される邦楽CD12cmシングルの全タイトルを“レーベルゲートCD”として発売する予定です。

2. 採用する著作権保護機能:

1枚の“レーベルゲートCD”は以下の2つのセッションから構成されています。

● 1stセッション

従来のCDと同様の民生用オーディオ機器向け音源については、パソコンでの再生を不可とするコピーコントロールを施しています。

● 2ndセッション

パソコン機器向けに音楽配信と同等の音質の暗号化された圧縮音源が入っており、インターネットで個別認証する方法によりパソコンでの再生・複製をコントロールしています。

3. 再生および録音(複製)方法:

● 1stセッション

民生用オーディオ機器でそのまま再生でき、カセットテープ等へのアナログ録音、SCMS(*2)にもとづいたMD等へのデジタル録音ができます。

但し、MP3再生対応CDプレーヤーおよびCD-ROM再生方式採用のカーオーディオ等では再生・録音できない場合があります。

● 2ndセッション

パソコンではインターネットでの個別認証手続き完了後、ハードディスクへ複製された音楽データを音楽再生ソフトウェア“MAGIQLIP”(*3)にて再生できます。また、ハードディスクに複製された音楽データはNet

MD等の“OpenMG”(*4)に対応した機器等へ指定された回数で“チェックイン・チェックアウト”(*5)ができます。なお、ハードディスクへの複製については、個別認証手続きにて複製回数をカウントすることにより、パッケージ毎に定められた課金が発生することになります。

※ 一回目の複製は当面の間は0円課金とします。

4. 音質について

SMEJでは、CDの音質をマスターテープに限りなく近づけるための改善を継続して行っており、これまで高精度でピュアなデジタル伝送技術である“ピュア・デジタル・リンク・システム(PDLS)”を導入してまいりました。このたび、「カッピング工程のための PDLS」の開発に成功し、更なる音質改善を実現いたしました。(別紙資料参照)この技術はレーベルゲートCDにも使用されているため、ユーザーにもご満足いただける音質でレーベルゲートCDの音楽を楽しんでいただけるものと考えています。

5. カスタマーサポート体制について

レーベルゲートCDにつきましては、SMEJお客様相談室にて消費者向けのサポート体制を整えます。

レーベルゲートCD・お問い合わせホームページ <http://www.sonymusic.co.jp/cccd/>

※用語説明

(*1)＝“レーベルゲートCD”は複数の技術を複合的に組み合わせたサービス仕様であり、SMEJの提唱に基づき、株式会社レーベルゲート、株式会社ソニー・ディスクテクノロジー、ソニー株式会社と共同で開発したものです。レーベルゲートのシステムを使用してインターネットでの個別認証手続きをとるため、本名称を採用しています。

(*2)＝SCMS(シリアル・コピー・マネジメント・システム)。MD、DATで採用されている著作権保護システム。

(*3)＝“MAGIQLIP”は、レーベルゲートMQ方式の音楽配信にも準拠したWindows対応の音楽再生ソフトウェアです。

(*4)＝“OpenMG”は、デジタル音楽コンテンツを管理保護するソフトウェア技術です。

(*5)＝パソコンからOpenMG対応外部機器・メディアへ音楽ファイルを転送することを「チェックアウト」、外部機器・メディアへチェックアウトした音楽ファイルをパソコンに戻すことを「チェックイン」といいます。

※参考:パソコン機器での再生・複製に必要な動作環境について

●対応OS…Windows 98SE、Windows ME、Windows 2000 ServicePack2、Windows XP Home Edition/Professional

●対応ハードウェア…

□CPU:MMX Pentium 233 MHz 以上。メモリ:64 MB 以上。

□ハードディスクの空き容量:50MB 以上。使用しているOSのバージョンによっては、50MB 以上使用する場合があります。また、曲データを保存するための領域が1曲あたり5MB程度さらに必要になります。

□ディスプレイ:800x480 以上 High Color(16bit)以上。

●その他の環境…

□Webブラウザ:Internet Explorer のバージョン 4.0 以降。

□通信環境:28.8 kbps 以上の通信速度を推奨。

以上

【別紙】

**音質改善を目的とした
「キャッシング工程のための“ピュア・デジタル・リンク・システム(PDLS)”」の開発
ならびにレーベルゲートCDへの応用について**

ソニーミュージックグループ内において、ディスク開発・製造をその事業目的とする株式会社ソニー・ミュージックマニュファクチャリング(静岡県榛原郡吉田町、代表取締役 森史朗、以下SMM)は、CDの音質をマスターテープに限りなく近づけるため、従来“アルトラザーキャッシングシステム”、“ピット・シグナル・プロセッシング”をCD製造工程に導入し音質改善を行なってきました。今回開発した「キャッシング工程のための“ピュア・デジタル・リンク・システム”」は従来行なっていた高精度でピュアなデジタル伝送技術をさらに進化させ応用したものです。

このシステムは、高精度発振器の発振周波数をデジタル信号のワードクロック等に変換することなく直接キャッシングマシンへ与える“ダイレクト・クロック・ディストリビューションシステム”、
固体メモリーから信号送出する“アルト・レーザ・キャッシング”をさらに進化させた
“アルト・レーザ・キャッシングⅡ”、
最終的なキャッシング信号であるEFM信号を精密に制御することによりCDの再生時に発生するジッタを減少させる“ピット・シグナル・プロセッシング”、
の三つの要素から構成されており、これらの改善を施した機器の設置にあたってはケーブル、電源、防振にも細心の注意をはかり機器の性能が損なわれないよう配慮されています。
このシステムは、CCCD技術を応用したレーベルゲートCDにおいても使用されており、より一層改善された音質を実現しています。また、SMMは今後も引き続きレーベルゲートCDを含めたCDの音質向上に向けた技術開発に注力してまいります。上記各技術の詳細については以下のとおりです。

“ダイレクト・クロック・ディストリビューションシステム”～高精度発振器から出力される高精度クロックの精度を損なわずにキャッシングマシンへ供給することを目的に開発。一般的には高精度発振器の出力周波数はデジタル信号のクロック周波数とは異なり変換が避けられませんでした。新システムはこの変換を省くことに成功、一層の高精度化を実現。

“アルト・レーザ・キャッシングⅡ”～従来からのアルト・レーザ・キャッシングシステムの特長である固体メモリーからの信号送出はそのままに、固体メモリーをスタティックメモリー化することでさらに低ノイズ化を達成。高精度発振器から出力される高精度クロックを直接供給することにより一層効果を高めています。

“ピット・シグナル・プロセッシング”～最終的なデジタル信号である EFM シグナルをキャッシングマシンの直前で精密に制御することによりディスク上のピットをジッタが最小になるように補正するためのもので、ソニー株式

会社がSACDのために開発した技術であり、これをさらに進化させ、今回レーベルゲートCDに導入することに成功。高精度発振器から出力される高精度クロックを直接供給することにより一層効果を高めています。

以上

◆本件に関するお問い合わせ先

株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメント 広報チーム